

ご意見をお寄せください

「弥生にぎわい拠点整備構想(案)」まとまる

若桜街道から見たイメージ図



鳥取の中心市街地は、人口の流出や高齢化、空き店舗の増加が進み、だんだんと中心市街地のにぎわいや活力が失われつつあります。これをくい止めるため、アメニティ道路など回遊空間の整備、街の入口情報館設置など空き店舗活用を進めています。

こうした取り組みに加え、にぎわいづくりの拠点として位置付けられている弥生地区(旧鳥取銀行本店跡地周辺)の整備の考え方について、広く市民のみなさんの意見をつかがうとともに、公募市民・学識経験者、周辺商店街・経済団体・地元自治会等関係者などで組織する「弥生にぎわい拠点活性化委員会(会長/霜田 稔鳥取大学教授)」を設置し、検討してきました。

活性化委員会は、商店街・女性団体等との懇談や委員会での議論を重ね、このたび、整備構想を提案されました。鳥取市は、この提案を受け、「弥生にぎわい拠点整備構想(案)」にまとめました。

そこで、みなさんにこの構想案を公表し、寄せられた意見を参考に、今後、具体的な整備計画をとりまとめたいて考えています。

基本テーマ

「なぜ今、にぎわい拠点の整備が必要なのか?」、「中心市街地活性化の基本は、空き店舗をなくし、新規店舗を開店することではないか?」、「自然発生的に店舗が交替することに任せよう、再生に取りかかった方がよいのではないか?」という市民意見もあります。

しかし、中心市街地は、にぎわいや活力を失いつつあり、現在進めている空き店舗対策等に加えて、今にぎわい拠点づくりに取り組むことが必要です。

「拠点整備が中心市街地再生

の起爆剤になるのか?」、「商店街再生に向けたきかけとなるのか?」といった意見も聞かれます。

活性化委員会から中心市街地の活性化・再生の考え方として、単に商業の振興のみではなく、市民活動やNPO、ボランティア活動など市民の公益活動が展開されるとともに、ここに人が住み続けていくしくみが重要との提案をいただきました。

弥生にぎわい拠点は、こうした中心市街地での活動や都心居住を呼び起こす気運を盛り上げるきっかけとなり、連鎖反応として中心市街地での活動を順々に拡げていく役割を担うことを基本テーマとしています。

このテーマに沿い

新たな都市型ライフスタイルを提案する商業施設

市民の公益活動・交流・新たな文化創造の場

都心居住の選好を呼び起こす新たな住宅

お祭りの時の桧舞台・イベント広場

昼間はまちのオアシスであり、鳥取の夜を代表する拠点を整備することにより、にぎわいと交流の場を創り、中心市街地活性化・再生のスタートモデルと考えています。

を整備することにより、にぎわいと交流の場を創り、中心市街地活性化・再生のスタートモデル

整備の方向

基本テーマに沿った整備の方向は、次のように考えています。

商業施設

少し質の高いマーケット、オープンカフェ、グルメゾーン、都市型ライフスタイル提案ショップなどをテナント方式で誘致するよう考えています。周辺商店街との補完関係、回遊性などの連携を図ります。

公共施設

市民プラザ(仮称)
市民団体、NPO、ボランティア団体などの市民公益活動の拠点とし、リーススペース、情報コーナー(図書および各サークル活動の情報など)、事務所機能、会議室、子どもたちのスペースなどの施設、通路はオープンギャラリーとしての活用を考えています。
イベントホール
展示会、ミニコンサート、各種会議などの活用を考えています。